



# 拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 89

令和 6年 9月 18日

**9月4日(水)に社協常任理事会が行われました。  
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



蒸し暑かった夏もようやく終わり、爽やかな季節を迎えています。食欲の秋、スポーツの秋、です。

## ■ 総務部より ■

・8月31日(土) 14時から地区センター多目的ホールにて、連町・社協・民児協の三者連携共同の「福祉除雪説明会」を開催しました。6町内会から9名、北区社協から4名、他12名、**総勢25名が参加**されました。北区社協担当者の馬場さんからの福祉除雪事業についての説明から始まり、昨年度の拓北・あいの里地区の福祉除雪の実施状況、7月7日に行われた福祉除雪意見交換会の結果、地域協力員の活動実施例、の報告があり、質問及び意見交換が行われました。1人だけで除雪を行うとなると曜日によっては都合が悪かったり、体調不良で出来なかったりすることもあるので、**数人のグループで対応する、夫婦や子どもも含めた家族で対応する**等の事例が報告され、今後の有効な参考となりました。

## ■ ふれあい交流部より ■

- ・8月22日(木)の「福まちサロン」は地区センターに**17名の高齢者が参加**され、「今日の朝ごはん」の自己紹介からスタートし、ポッチャ、合唱「幸せなら手をたたこう」、頭の体操(クイズ、なぞなぞ)、カードゲーム「虹色のへび」などを楽しまれました。  
次回は9月26日(木) 10:00~11:30、拓北パレス会館にて開催予定です。
- ・8月29日(木)の「出会いふれあい健康広場」は地区センター多目的ホールに**6組12名の親子さん、スタッフ等を含めると総勢30名が参加**し、**自由遊び、身体測定、保健師・栄養士さんのお話、ペープサート「バナナの親子」、絵本講座**が行われ、皆さん楽しく過ごされました。
- ・9月3日(火)の「ひまわりクラブ」は拓北・ひまわり会館に**5組11名の親子さんが参加**され、**自由遊び、紙芝居、手遊び**などを楽しまれました。  
次回は10月10日(木) 10:00~11:30、地区センター和室にて開催予定です。



総勢25名が参加した、8月31日の福祉除雪説明会の様子



ご高齢の方17名が参加した、8月22日の福まちサロン。ポッチャを楽しんでいるところ



6組・12名の親子さん、スタッフ等を含めると総勢30名が参加した、8月29日の出会いふれあい健康広場



5組・11名の親子さんたちが参加した、9月3日のひまわりクラブ

## ■ 地域ケア部より ■

8月例会は20日(火) 18:30~20:00、北区社協・第2層生活支援コーディネーター・福本大智(ふくもと・だいち)さんをゲストに「災害ボランティアセンターでの活動報告ー石川県志賀町(しかまち)での活動をもとにー」をテーマに、地区センター2階集会室にて話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター31名、オンライン1名、合計32名。

話題のコンテンツは、**1.災害ボランティアセンターでの活動報告、2.札幌で起こり得る災害、3.災害に備えて、4.社協の取り組み、の4点**です。

1番目について、**災害時においてはボランティア活動が必要不可欠**になります。**能登半島地震後の志**

[ 裏につづく ➡ ]

賀町では災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアさんたちが瓦礫の撤去や家屋の掃除などの活動を行いました。全国各地から応援に来た社協職員はニーズの受付やボランティアのマッチングなどを行いました。

2番目の札幌で起こり得る災害について、他都市と比べて地震や台風などの災害リスクは低いと言えますが、2018年発生 of 胆振東部地震等の例から過度に恐れる必要はないが、いつ何が起きても対応できる準備と心構えは必要との話がありました。

3番目の災害への備えについて、その基本方針として、①命を守るために何が重要かを想像—住宅の耐震化、家具の固定等、②日頃取組が大切—地震に対して正しい知識を持ち、地域においても防災の備えを継続、

③より幅広い連携が必要—自分の命は自分で守る「自助」、地域のことは地域で助け合う「共助」が必要です。

自助の具体策として、①家具の固定、懐中電灯等の準備。②発災72時間以内は公的支援が届きにくいことに鑑み、飲料水3日分(1人1日3リットル)。非常食3日分(ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど)、その他生活必需品(トイレトーパー、ティッシュペーパー、ろうそく、カセットコンロなど)を、あらかじめリュックサックに詰めておき、いつでも、すぐに、持ち出せるようにしておく。③冬の災害に備えて、ポータブルストーブや灯油などの暖房器具を準備しておく。④安否確認の方法や集合場所などを事前に話し合っておく。災害用伝言ダイヤルを利用する—局番なしの「171」に電話をかけると、伝言の録音・再生ができます。⑤札幌市発行の地震防災マップ、洪水ハザードマップをよく見て、決まった場所に保管し、家族で共有する。

共助の具体策として、①災害時の支え合いは、普段からのご近所同士のコミュニケーションが大切です。②穏やかな見守り(外からそっと見守る)だけではなく、しっかりと見守り(直接会って見守る)も大切です。③見守り・訪問活動、サロン活動、防災訓練、地域福祉マップの活用など。まずは日頃からの見守り体制づくりをおこないましょう。それが災害時にも役に立ちます。

4番目の社協の取り組みについて、特に甚大な被災があった場合、札幌市からの要請により、原則発災から72時間以内に災害ボランティアセンターを設置・運営します。地域の取り組みとして、町内会長、民生委員、福まち推進委員らが見守り・訪問活動、安否確認、町内の巡回、被害の確認、声掛けなどを行った事例があります。

これまでの大震災での教訓として、震災時には普段やっていないことはできない、というのがあります。したがって、災害時の備えを各自で行ったうえで(自助)、日頃から隣近所同士で声掛けや挨拶をして、互いに気にし合う関係を作っておく(共助)ことがとても大切です。

なお、9月例会は17日(火)18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、札幌あいの里不動産社長の岩本寿夫(いわもと・ひさお)さんをゲストに「ニュータウンから高齢者のまちへ ◆不動産業から見るあいの里の今むかし ◆高齢者の不動産取引の諸問題 他」をテーマに、地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の90号で報告いたします。

## ◇ 今後の予定 ◇

10月例会は15日(火)18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、春の歌 ~ 小規模多機能型居宅介護(介護支援専門員)の杉本香陽(すぎもと・かよう)さんをゲストに「折れない心を育てるいのちの授業 ~ 温かなまちづくりのためのヒント ~」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メーリングリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。

## ■ ボランティア企画部より ■

8月9日(金)10時から、地区センター福まちの部屋で、社協三役、連町社会福祉部長、社協ボランティア企画部員、生活支援ボランティア登録者が出席し、ボランティア企画部会及び第2回生活支援推進連絡会が行われました。7月5日の第1回会議を受け、具体的な活動に向けて、安全・安心で動きやすい体制を目指し、打ち合せて意思統一を図ることを目的に、以下の8項目、①組織体制、②受付体制、③依頼受付・内容確認、④ボランティアさん依頼調整(対応範囲事前確認)、⑤支援ニーズ及び現場事前確認、⑥依頼作業実施、⑦実施結果相互確認及び記録、⑧実績分析及び蓄積・展開、についての具体化を情報共有しました。特に、電話による受付及び対応手順について出た意見を、マニュアルとしてまとめました。



地区センター31名、オンライン1名、合計32名が参加した、8月20日の地域ケア部の例会